巨匠

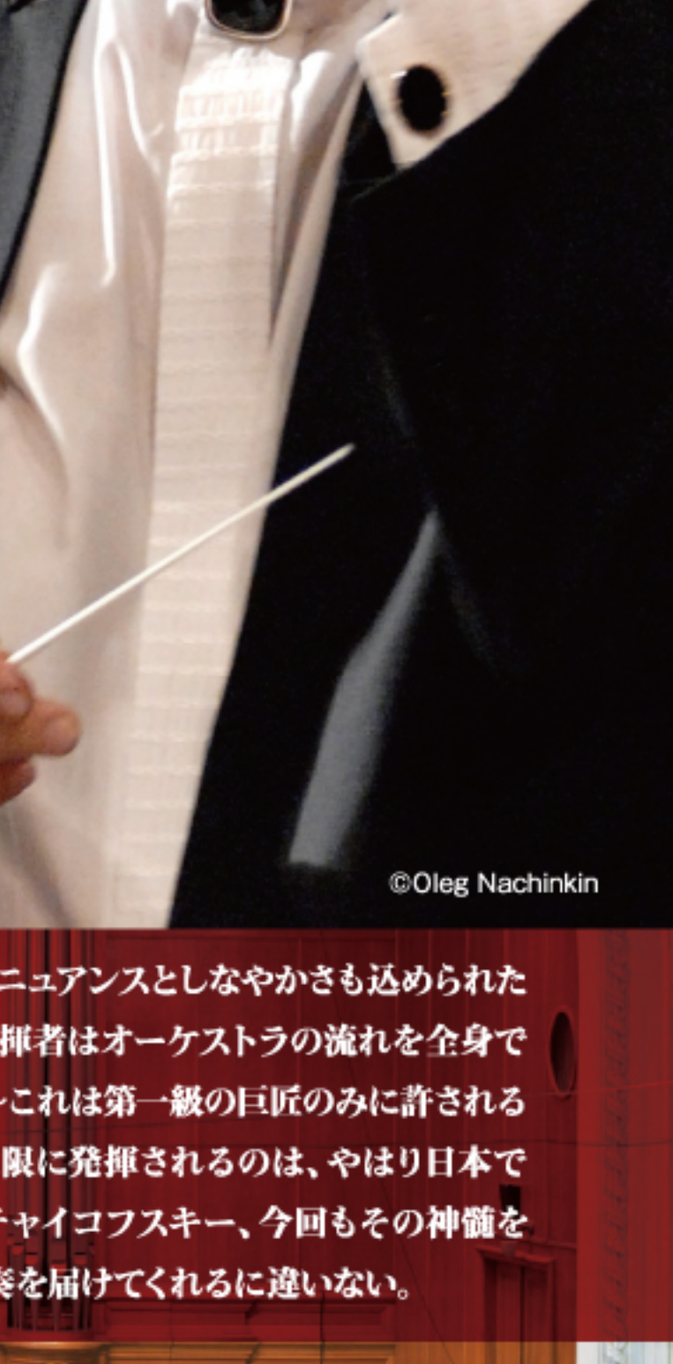
TCHAIKOVSKY SYMPHONY ORCHESTRA
VLADIMIR FEDOSEYEV,
ARTISTIC DIRECTOR AND CHIEF CONDUCTOR

日本公演：
2017年11月3日(金)～15日(水)

東京公演：11月15日(水)
19時開演 サントリーホール

フェドセーエフ

チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ

（旧モスクワ放送交響楽団）

ウラジーミル・フェドセーエフ
Vladimir Ivanovich Fedoseyev

©Oleg Nachinkin

三浦文彰
Fumiaki Miura

©Yuji Hori

圧倒的なパワーと豪奢なサウンドの中にも繊細なニュアンスとしなやかさも込められた品格漂う演奏で絶大な人気を誇る同コンビ。『指揮者はオーケストラの流れを全身で把握し、メンバーたちに完全な自由を与えている～これは第一級の巨匠のみに許される勇気である』と評されています。その魅力が最大限に発揮されるのは、やはり日本で最も人気の高いロシア人作曲家のひとりであるチャイコフスキー、今回もその神髄をたっぷりと味わえる充実のプログラムで最高の演奏を届けてくれるに違いない。

プログラム：チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲（三浦文彰）
ラフマニノフ：交響曲第2番

БОЛЬШОЙ СИМФОНИЧЕСКИЙ ОРКЕСТР им. П.И.ЧАЙКОВСКОГО
ВЛАДИМИР ФЕДОСЕЕВ
ХУДОЖЕСТВЕННЫЙ РУКОВОДИТЕЛЬ И ГЛАВНЫЙ ДИРИЖЕР

ロシア文化フェスティバル
Фестиваль российской культуры в Японии
2017 IN JAPAN

МИНИСТЕРСТВО КУЛЬТУРЫ
РОССИЙСКОЙ ФЕДЕРАЦИИ

巨匠フェドセーエフ

■プロフィール

指揮 Conductor

ウラジミール・イヴァノヴィチ・フェドセーエフ Владимир Иванович Федосеев

1932年レニングラード（現サンクトペテルブルグ）生まれ。地元のムソルグスキー学校で音楽の教育を受けたのち、モスクワのグネーシン音楽アカデミー及びモスクワのチャイコフスキー音楽院のレオ・ギンズブルグ教授のもとで学ぶ。1971年、伝説的な指揮者であるエフゲニー・ムラヴィンスキーからレニングラード・フィルハーモニー管弦楽団の客演指揮者として招かれたことをきっかけに、輝かしいキャリアがスタートした。1974年、モスクワ放送交響楽団（現チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ）の音楽監督及び首席指揮者に就任。以後40年を越えるパートナーシップを築いてオーケストラをロシアのトップクラスの楽団に育て上げ、世界ツアーを通じて海外での評価も確立している。フェドセーエフは、叙情的なロシア作品でも重厚なヨーロッパ作品においても、国民的特性を存分に引き出した演奏をすることで定評がある。ロシア以外でも、バイエルン、ケルン、シュトゥットガルトの各放送響、ベルリン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ハンブルク・フィル、フランス国立管、フランス国立放送フィル、ベルギー国立管、チューリヒ・トーンハレ管、クリーヴランド、デトロイト、ピッツバーグ等欧米各国のオーケストラにも客演。さらに1996年より東京フィルハーモニー交響楽団の首席客演指揮者、1997年から2004年までウィーン交響楽団の首席指揮者も務め、ウィーンのムジークフェライン・ザールや海外で大成功を収めた。オペラの分野でも精力的に活躍しており、チューリッヒ歌劇場での数々のプロダクションに加えて、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、フィレンツェ 5月音楽祭、ローマ歌劇場、ボローニャ歌劇場、モスクワ・ボリショイ劇場、サンクトペテルブルグ・マリンスキー劇場などの一流オペラハウスや音楽祭の指揮台に上がっている。また、チャイコフスキー、ムソルグスキー、リムスキー＝コルサコフ、ラフマニノフ、ストラヴィンスキー、スクリャービン、ショスタコーヴィチ、ブラームス、ベートーヴェン、マーラーや、オペラ、バレエ作品など、録音も膨大な数に及んでいる。☒フェドセーエフはこれまでの偉大な功績に対し、ロシア政府はもちろんオーストリア政府、ウィーン市、オーストリア・アカデミー、グスタフ・マーラー協会などから数々の賞を受賞。2012年9月にはロシア正教会の最高位、キリル総主教からセルギイー・ラドネジスキー最高位の勲章を叙勲した。

ヴァイオリン Violin

三浦文彰 Fumiaki Miura

三浦文彰は、2009年世界最難関とも言われるハノーファー国際コンクールにおいて、史上最年少の16歳で優勝。国際的に大きな話題となった。東京都出身。両親ともにヴァイオリニストの音楽一家に生まれ、3歳よりヴァイオリンを始め安田廣務氏に、6歳から徳永二男氏に師事。2003年、04年と全日本学生音楽コンクール東京大会小学校の部第2位。2006年4月、ユーディ・メニューイン国際ヴァイオリンコンクール・ジュニア部門第2位。2009年10月、ハノーファー国際コンクールにて史上最年少で優勝。同時に、聴衆賞、音楽評論家賞も受賞。地元紙では「確かな技術と、印象的なヴィルトゥオーゾ性あふれる心温まる演奏は、国際審査員や音楽評論家の評価を得るにとどまらず、聴衆の心をもつかんだ」と賞賛した。また、The Strad誌は、「驚くべきその演奏はハノーファー国際コンクールのすべてを吸い取った」と評した。これまでに、モスクワにてオレグ・カガンメモリアルフェスティバル、ブラウンシュバイクフェスティバル、宮崎国際音楽祭、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン音楽祭、マントン音楽祭、ラクリン＆フレンズ音楽祭、メニューイン・フェスティバなどに出演。国内主要オーケストラはもとより、ハンブルク北ドイツ放送交響楽団、ミルウォーキー響、オレゴン響、ユタ響、ウィーン室内管、ニュルンベルク響などとも共演し、国際的な活動を展開している。2012年には、プラハ・フィルとの日本ツアー、2013年4月にはシュトゥットガルト放送響との東京公演を行った。2013年は、ペンデレツキ80歳記念演奏会にも出演。2014年は、ルーブルでのリサイタルでパリ・デビューを果たし、ローザンヌ室内管、モントリオール室内管との共演も大好評を博した。2015年9月には、リントゥ指揮ベルリン・ドイツ響との共演を得て、チャイコフスキーとメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を収録し、エイベックスよりリリース。最新CDは、2016年にリリースした「名曲コレクション」。2016年NHK大河ドラマ「真田丸」テーマ音楽のヴァイオリン・ソロを演奏している。2009年度第20回出光音楽賞受賞。これまでに、ザハール・ブロン、ジャン＝ジャック・カントロフ、チョーリャン・リン、パヴェル・ヴェルニコフの各氏に師事。（公財）明治安田生命クオリティオブライフ文化財団より奨学金を得て、ウィーン私立音楽大学に入学、パヴェル・ヴェルニコフ氏、ジュリアン・ラクリン氏のもとで研鑽を積んだ。使用しているヴァイオリンはNPO法人イエロー・エンジェルより貸与されたJ.B.Guadagnini（1748年製）、ヴィオラは日本ヴァイオリンより貸与された1780年製ストリオーニスクール Ex-Rachlinである。
ウィーン在住。

チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ（旧モスクワ放送交響楽団）管弦楽

ロシアの最も輝かしいオーケストラとして知られるモスクワ放送交響楽団は、1930年に創立されたソヴィエト・ラジオ・ネットワークの公式オーケストラとして創設。1933年には、チャイコフスキーの演奏団体として"世界最高のオーケストラ"であることを認められ、ロシア文化省、国際チャイコフスキー協会、チャイコフスキー博物館の任命によりチャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラに名称を改め、ロシアが誇る偉大な作曲家の音楽を世界中のコンサートホール、そして数々のレコーディングで広めるためにますます大きな役割を果たすこととなった。2015年はチャイコフスキー生誕175年の記念すべき年となり、14/15年シーズンも恒例のウイーン・ムジークフェラインでのチクルスのほか、ヨーロッパ各地、そして日本を含むアジアへのツアーを行い、大成功を博した。